



ドブネ (S=1/2)

能登半島地震からの復興

氷見市文化財センター 一般公開日のおしらせ

氷見市立博物館分館、氷見市文化財センターには「氷見及び周辺地域の漁撈用具」として国の登録有形民俗文化財となっている富山湾一帯から能登半島の和船を中心に、多数の和船を収蔵展示しています。また、昨年の地震以降、市民の皆様から文化財レスキューを通じて寄贈を受けた当市ゆかりの品々の整理作業も行っています。

その他、農具や生活用具など地域のくらしを教えてくれる様々な民具を収蔵展示し、公開日には学芸員が随時解説します。

氷見市文化財センター
氷見市中田645番地
(旧女良学校)

【令和7年度開館日】

4月26日(土)
5月24日(土)
6月28日(土)
7月26日(土)
8月23日(土)
9月27日(土)
10月25日(土)
11月22日(土)
3月28日(土)

【開館時間】

午前9時～午後4時
※お申し込みは不要です

入 場 無 料

【お問い合わせ先】

〒935-0016
富山県氷見市本町4番9号
氷見市立博物館
(TEL:0766-74-8231)



竹製「らっかたんく」

太平洋戦争中、氷見で生産された戦闘機の増加燃料タンク



氷見の農具

足踏式脱穀機と碎土機

くらしの道具と生活の知恵

旧女良小学校校舎を転用した収蔵展示施設、氷見市文化財センターでは、氷見市立博物館が開館準備のころから40年以上かけて収集してきた、たくさんの民具を収蔵展示しています。

民具とは、衣食住や生業など、私たちが毎日の暮らしのなかで使っている、様々な道具のことをいいます。昭和30年代ごろまでは、日常生活に使われる多くの道具類は、その地域の職人の手によって作られ、また使い手自らが手作りをして、日々の暮らしに役立ててきました。

氷見市文化財センターで収蔵している民具には、国の登録有形民俗文化財「氷見及び周辺地域の漁撈用具」をはじめとする漁業関連資料のほか、農作業に使われた農具類、衣食住に関する用具、職人が使った独特の道具類など、いろいろなものがあります。これらの民具は、氷見地域でくらしを営んできた人びとの昔の生活の様子を知る大切な資料であり、モノに込められた知恵や工夫を現代の私たちに教えてくれます。

また旧体育館では、氷見の定置網漁に欠かせない存在だった網取り船ドブネの1/2スケールの復元模型、ドブネと同じく日本海沿岸地域特有の造船技法「オモキ造り」で建造された神通川流域のササブネと若狭湾のトモボトを収蔵しています。そのほか、富山湾東部の朝日町から西部の氷見市、能登半島外浦にかけての海船、十二町潟や庄川上流の川舟など、地域の生業を支えた多彩な和船を公開しています。



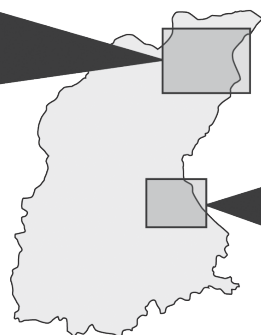
氷見市文化財センター（旧女良小学校）



神通川流域のササブネ



若狭湾のトモボト（左）とドブネ（右）



氷見市立博物館

〒935-0016 富山県氷見市本町4番9号

TEL 0766-74-8231 FAX 0766-30-7188

E-mail : hakubutsukan@city.himi.lg.jp

URL : <https://www.city.himi.toyama.jp/section/museum/>

○氷見市文化財センター 富山県氷見市中田 645 番地 お問い合わせは氷見市立博物館までお願いします。